語左ニ次傳ふ之
飽海郡採作ム石黒何某といへる百姓の家
に古き人の手傳へたるものとて拙き記文
あり其中に國史ニ見へさる年号二十五
あり所謂二十五ハ

善記　正和　教到　僧德　明要
貴樂　法清　兄弟蔵知　師安　金光
知僧　賢称　鏡帝　勝照　端政
吉貴　願轉　光和　定居　倭重
仁王　聖德　僧要　命長　常色

是なり善記より常色満て年数百二十二
年とせ右二十五のうち飽海郡大物忌
神社の古記ニ明要師安僧要仁王の四ツ
あり師安迄　用明帝の年号とし（欽明の誤か）
羽黒山の旧記ニ照僧吉貴の二ツあり照僧
を聖德太子十七の歳附とし吉貴を
推古天皇癸巳年とせ神社啓蒙播州伊
和社記ニ師安の一ツあり　欽明天皇甲
申歳とせ何爲語ニ（万治二年防州児玉信栄作）　金光貴樂
倭重の三ツあり金光迄　敏達帝の年号とし